

基 調 講 演



テーマ

「森を元気に 人を元気に 命を元気に」

富山市ファミリーパーク園長 山本 茂行

今なぜクマが山から出てくるのだろう

カワウソとオオカミ。この2つの動物は昔日本にいましたが今はいません。カワウソは川が汚れたり、コンクリートで固められて魚がとれなくなり、オオカミは人や家畜をおそうときらわれて…人のせいで滅びました。そして何が起きたか。クマが山から出てきます。サルやシカ、イノシシが田んぼや畑を荒らしています。もしオオカミがいたら、いろいろな動物といっしょに生きていくために、その数をコントロールしてくれるので、こんなことは起きませんでした。日本の動物園や水族館は最近まで日本の動物がいなくなることに無関心でした。しかし日本中で問題が起きて、今さまざまな取り組みを始めています。



命たちが生き続けるには人の手がいる

みんな一人ずつ顔がちがいますが、みんな元気な子どもたちです。大人になって子や孫ができ命が続いていく。人だけでなく地球のさまざまな生きもの全部の命がずっと続いていける…そんな「生物多様性」を守り、ふるさと日本の自然や動物を伝えたい思いを、ファミリーパークは開園から27年間つらぬいてきました。絶滅の危機にあるヤマネコを、日本中の動物園と協力して育てたり、人と家畜のつながりを伝える馬との田おこし体験なども全国へ広がっています。また園内には世界で富山県と石川県にしかないホクリクサンショウウオが産卵する湿地があり必死に守っています。今、さまざまな命が生き続けていくには人の手が必要です。





動物園でもっと自然を感じてほしい

富山にもたくさんのクマが出てきたことをきっかけに、私はファミリーパークを富山のみんなが困っている問題を解決できる動物園にしたいと思いました。そこで、里山や水辺、森など園内の自然環境を利用して、子どもも大人も勉強できる場所にしました。観察や記録も大切ですが、まずハダシになって田んぼの泥を感じてもらいたいと思いました。自然の心地よさ、そして自然は自分の思い通りにならないと感じることも大切です。また呉羽丘陵に住む人たちや学校・施設などといっしょに、自然や歴史、文化など地域の宝物を結びつけて、さまざまなイベントや体験を行い、森を元気に、人を元気に、命を元気にしたいと考えています。



“生きる力”は自然が教えてくれる

私はいつか園内の木の上に教室をつくりたい。木の上で授業をして、木から降りて乗馬をしたりしながら、すべての生きものの命が繋がっていることを感じ、心にしっかり残せる…動物園をそんな場所にしたいのです。小さい頃から自然の中で育った私は今、自然と遊ぶ大切さを強く感じます。自然の中では痛い目にもあうし、絶対自分の思い通りになりません。でもとても楽しい!みなさんも水について観察や学習して楽しかったことをずっと心に残してください。すると自分の夢や希望が生まれ、どんなに大変でも前へ進む力が生まれます。それはインターネットやケータイでは学べません。“生きる力”を教えてくれるのは、自然です。



山本 茂行 (富山市ファミリーパーク 園長)

プロフィール

1950年 富山県生まれ。
 2005年 当園長となる。郷土の動物に力を入れた動物園作りに取り組む。
 2010年6月 社団法人日本動物園水族館協会の会長に就任。
 現在は、動物園事業だけでなく地域に根ざした事業や里山をテーマにした取り組みにも力を注いでいる。調査計画を主に担当。

著書: 「愛くるしいスリカータ」「動物たちの地球, vol.50」(朝日新聞社)
 「ファミリーパークの仲間たち」(北日本新聞社)
 「動物園というメディア」(青弓社、共著)
 「博物館学講座第3巻—現状と課題」(雄山閣、分担執筆)など。